

スキゾフレニックライフ

第5話 『母の半生 後編』 / 古謝 哲也

母:美音子の留学生活
(アメリカでの生活)が
始まった。

ニューヨーク
(摩天楼)

—1960年代—

カレッジ
での授業

母:美音子

友達もできた。

母

教会

牧師

ホームステイ先の
ホストファミリー
との食事と交流。

日曜日は時々、
ホストファミリーと
一緒に教会へ行った。

勉強に励みながら、
冬は雪かきのバイトや、



夏は芝刈り機で
芝刈りのバイト。



スーパーの
レジ打ちも。

ここは
スーパーの
店内



ちょっと!
計算、速過ぎ
じゃない?!

客からの
クレーム

母のレジ打ちは
正確だったが。



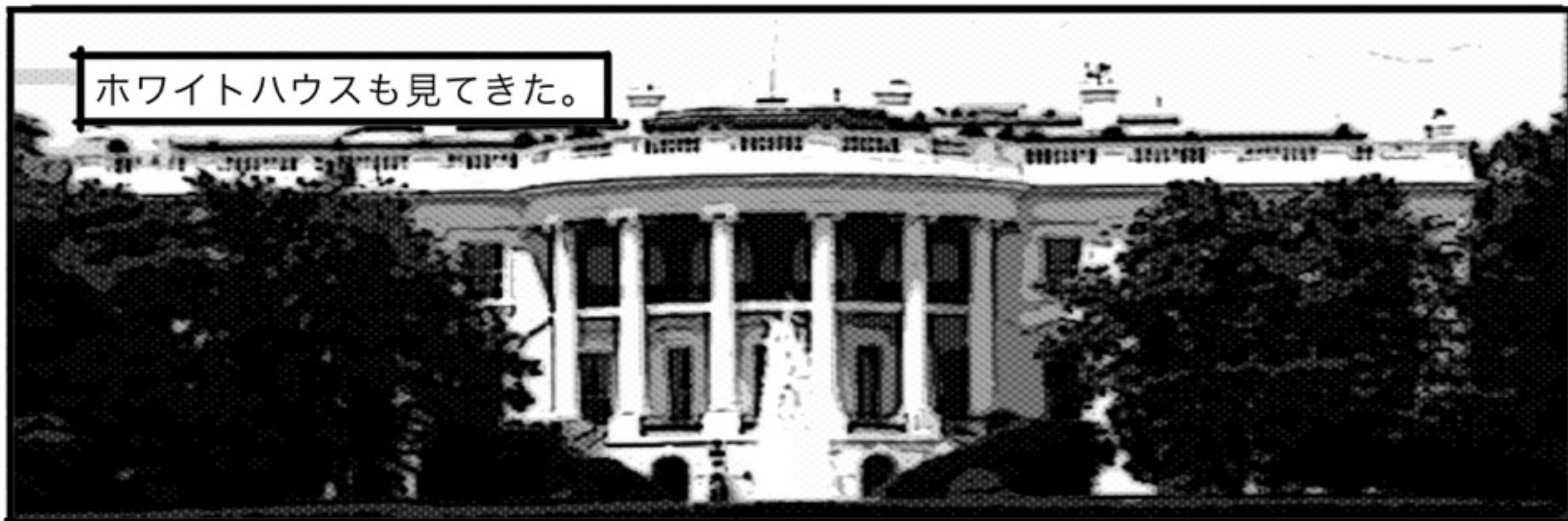
母が、余りにも
テキパキとレジ打ち
する事にお客さんが
戸惑ってたらしい。

よく、友達に誘われ、
映画やミュージカル、
クラシックコンサート
を鑑賞していた。

『マイフェアレディ』、『王様と私』、
『ラマンチャの男』なども
観たそうです。



ホワイトハウスも見てきた。



アメリカ中を
旅した。

摩天楼や、
自由の女神、

グランド
キャニオン、

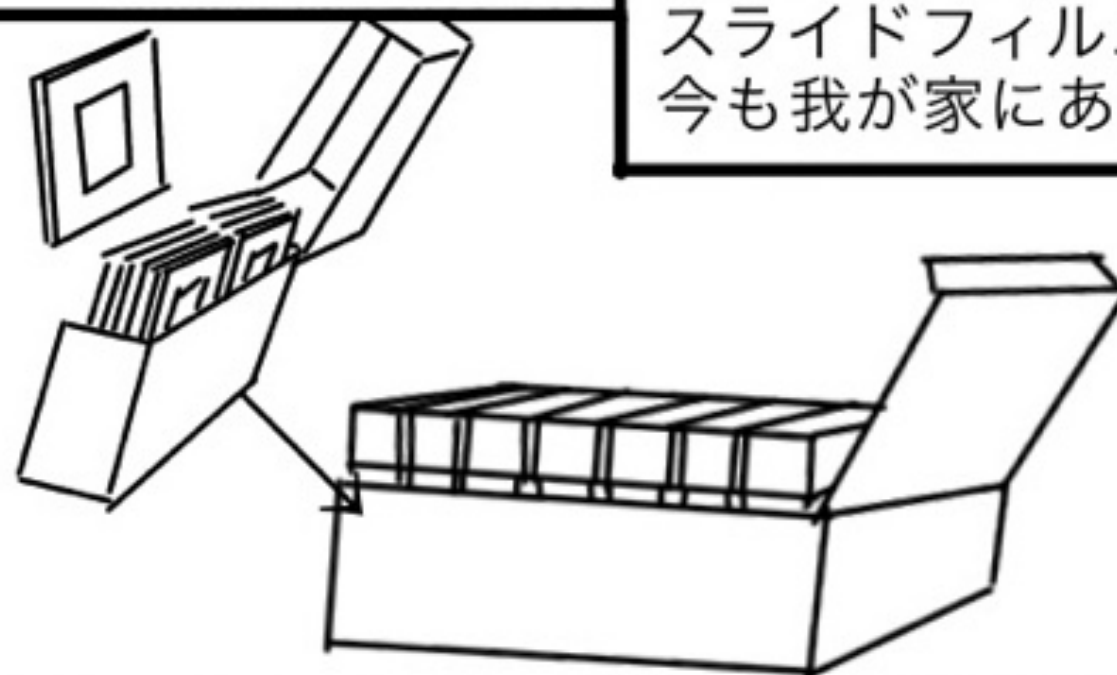


ナイアガラの滝、

アイススケート場など、



母が全米で撮った
スライドフィルムが
今も我が家にある。



美音子は
アメリカで
稼いだ
バイト代の
一部を、



小包に入れて、
沖縄の実家へ
送った。

その時代、
沖縄は物価が安く、
母の稼ぎは高価。

それから、
米軍統治下の
沖縄では
ドルが使えた。

美音子の
母:ヨシ



母のエピソード



多くの一般市民も来ていた。

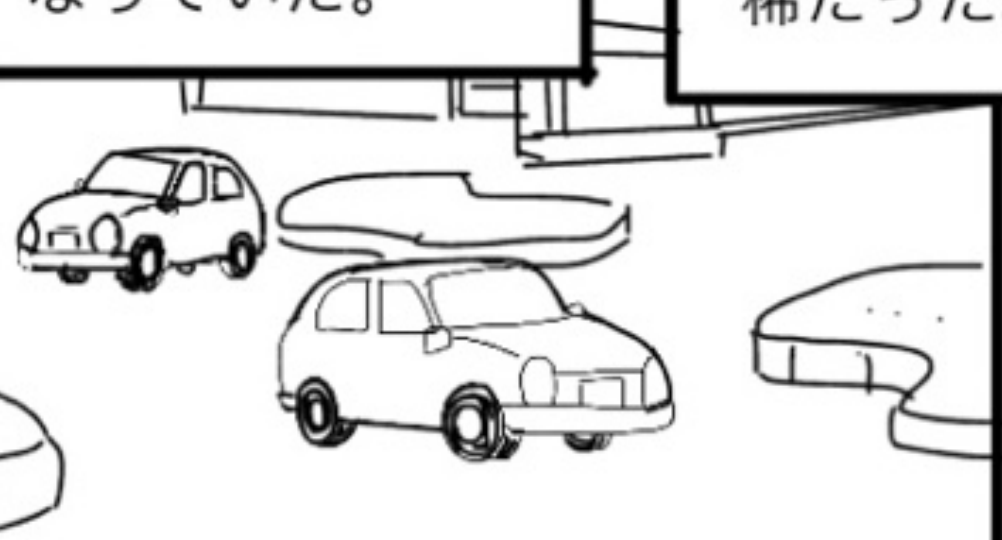
数多くの墓参者が
大統領の死を悼んだ。

留学生活から、
沖縄へ通った後は、
米軍基地へ就職した。



私の母は経済的に
自立した女性に
なっていた。

当時、
経済的に
自立する
女性は
稀だった。



そこで、
事務職として
働いていた。

美音子は
高給取りに
なっていた。



女性ドライバーが
少なかった時代に
車の免許も取った。



母:ヨシのために
家を建てた。

美音子の
その経済力で
建てた家だった。



美音子の元には、
見合い写真を
持って来た親戚や
知人もいたが、

30歳になっても、
自分に来た縁談も
断り続けた。

そんな彼女に
業を煮やす人の
勧めもあり、

ある男性との
見合いを受ける
事にした。



ある時、
強いられる
ように、



その相手として、紹介されたのは、

ひろし
古謝佑史
(私の父)
だった。

美音子は、
佑史との結婚を
決意した。

美音子は、
新居（2件目）を
建てた。

その費用はみな、
彼女が出した。

母:ヨシのために
初めて建てた家は、
弟夫婦が
住む事になった。

結婚式を
教会で挙げた
かったが、

式の費用は
美音子が
全部出すにも
関わらず、



でも、佑史は妻の希望を
カタチだけでも叶えたいと思い、



ウェディング姿の写真をも
知人の写真館で撮った。

新郎の親戚が
教会での挙式に
反対して、

結局、和式で
挙式した。





母から英語を学んだ。
父も学生時代は優秀な人だったので
飲み込みが早かったそうだ。



母の話では、

父は
スポーツマンで
剣道の有段者。



庭で竹刀を
素振りしたり、

趣味は
碁を打つ事。



母が昔、勉強用に使っていた
NHK英会話教材のソノシート
(赤いレコード) を用いての勉強。

父は2週間で
英語をマスター
した。



米軍基地（職場）の
同僚とその家族を
母が時々招いた時は、



父は
握り寿司を
握って、



そのお客さんに
御馳走した事もあった。







火葬場にて、

佑史さんを
焼いちゃ
駄目ー!!!

熱いでしょ！
佑史さん!!
私が助けて
あげるから！

熱いから!!

焼かない
でー!!!
!!!!!!

佑史さーん
!!!!!!

佑史さーん
!!!!!!

夫の死から、

数年後が過ぎた。

職場から、
帰ってきたある日…。



息子が
母を迎えて、

ママー！



哲也…

佑史の
命日の前日でも
あったこの日、



あああああ！！！！

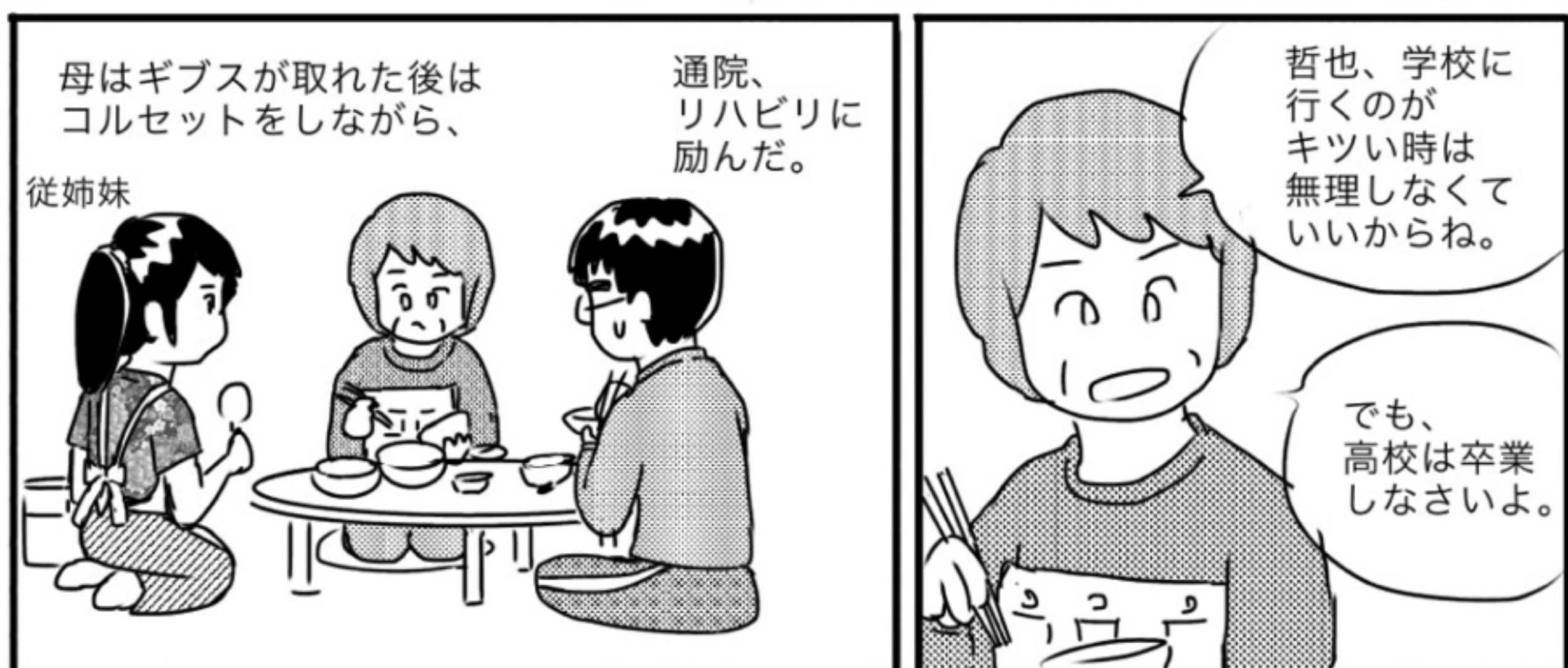
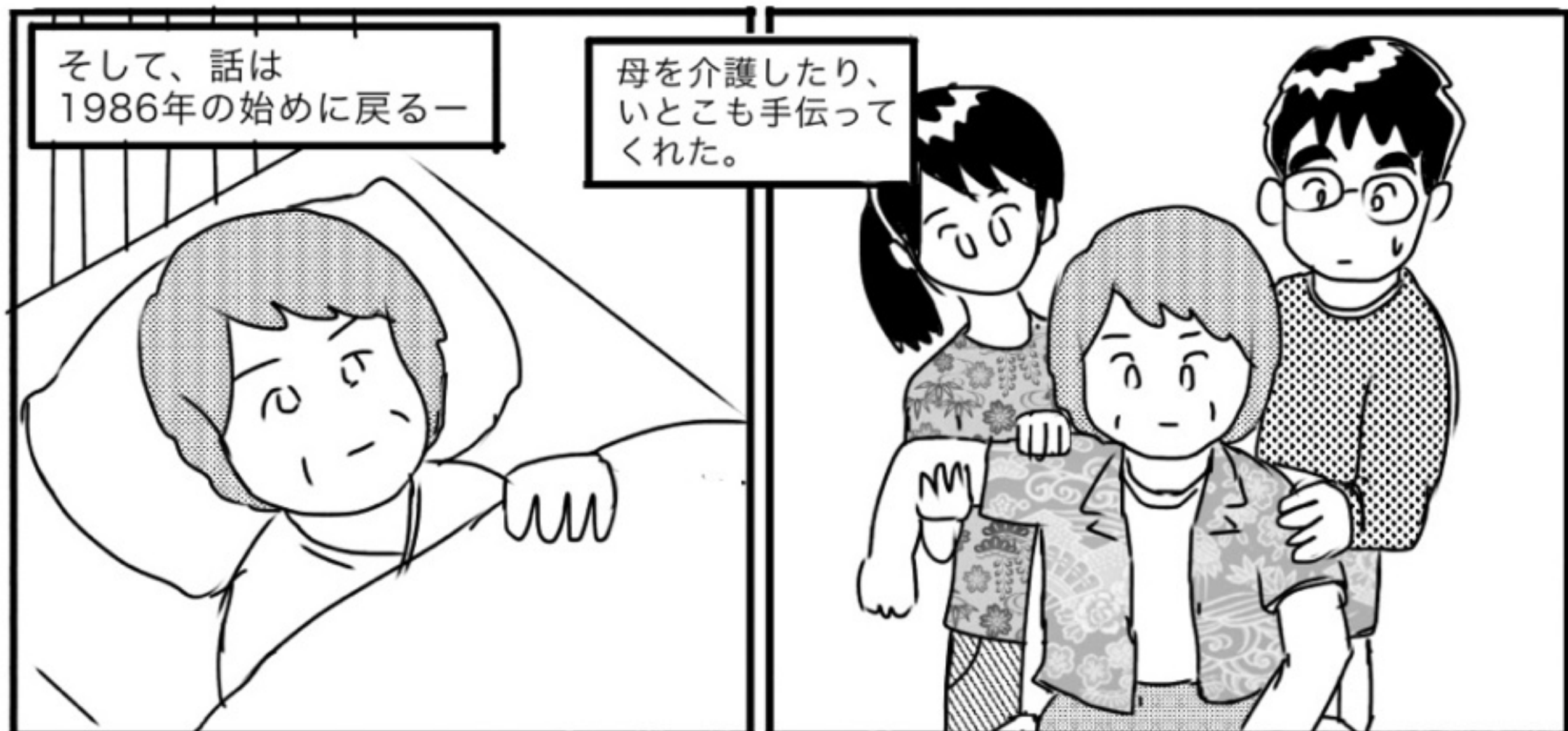


息子が佑史に
似て来たような
気がしてきた。





以降、母は建設工事現場の手伝い、介護助手、内地の工場（出稼ぎ）や、旅館の従業員としての仕事をして来た。



この頃、僕は、高三の2学期を終えて
翌年は卒業の日が近づいていた。

(14)

スキゾフレニックライフ第5話/終わり。
次回へ